

流山児★事務所レパートリーシアター2011

生と死が転倒する
コミカルな音楽劇！！

花札伝綺

はなふだでんき

作○寺山修司

演出○青木砂織

音楽○本田実

さあ、思い出してみな、死んでないヤツがひとりでもいたか？

流山児★事務所



目黒圓融寺公演決定！！

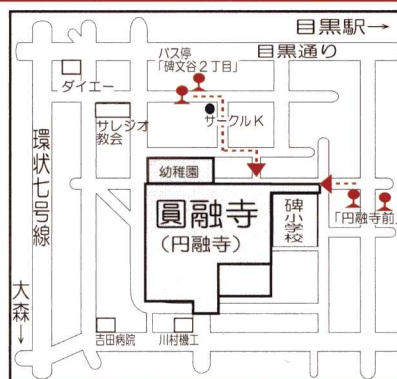
2011年8月6日(土) 19時開演

料金 2500円 (未就学児童無料・高校生以下は1000円)

チケット
お問合せ **流山児★事務所** TEL: 03-5272-1785
http://www.ryuzanji.com

企画協力: 文芸実験室 天台宗圓融寺 (円融寺)

文化芸術振興費補助金 (トップレベルの舞台芸術創造事業)



文経
殊王
院山
圓融寺

東京都目黒区碑文谷1-22-22

TEL 03-3712-2098 http://www.enyuuji.com

交通のご案内

◇JR目黒駅より東急バス(大岡山小学校行き)乗車15分「碑文谷2丁目」下車 徒歩3分

◇東京メトロ「西小山駅」徒歩15分 ※タクシー乗り場もございます

◇東京メトロ「洗足駅」より東急バス(渋谷駅行き)乗車5分「圓融寺前」下車 徒歩3分

わたしたちの「劇場」とは？

劇場とは自由に「他者」と出会う解放区＝アジール(避難所・自由空間)。劇場を真に民衆のアジール～出会う・創る・観る・寄り合う場所～にすることが、河原者の末裔であるわたしたちの永遠の課題です。私たちは志ある全国の友人たちと共に2011年、新しい演劇ネットワーク作りを始めました。それが寺社・ライブハウス・コミュニティカフェなどを「劇場化」し、多くの人が共有＝協働する「旅するゲキジョウ」シリーズです。ヒト(わたし)とヒト(あなた)が出会う場所、そこが《劇場》です。

震災の日、パニックに陥った首都圏で、ささやかな「避難所」になればよいと思われパートリーシアター第2弾『夢謡話浮世根問』の上演を続けました。私たちは自然の猛威にはあまりにも無力です。今、無力な私たちが出来ることは「集団の手カラ」を信じることではないでしょうか？演劇は人のココロを熱くするモノです。演劇はヒトとヒトを繋げる力を持っています。そして劇場は、民衆のココロの「避難所」なのです。

いまこそ、いのちいっぱい、いきましょ。わたしたちは元気です。

流山児★事務所
芸術監督 流山児祥



昭和十年十二月十日に
ぼくは不完全な死体として生まれ
何十年かかって
完全な死体となるのである
そのときが来たなら
ぼくは思いあたるだろう
青森県浦町宇橋本の
小さな陽のいい家の庭で
外に向かつて育ちすぎた桜の木が
内部から成長をはじめるときが
来たことを
子供の頃、ぼくは
汽車の口真似が上手かった
ぼくは
世界の涯で
自分自身のなかにしかないことを
知っていたのだ
(寺山修司「懐かしのわが家」より)



寺山修司(てらやましゅうじ)

作／寺山修司
演出・美術・衣装／青木砂織
音楽／本田実
振付／石丸だいご
照明／ROMI
音響／畝部七歩
舞台監督／小林岳郎
芸術監督／流山児祥
協力／九條今日子
主催／流山児★事務所
文化芸術振興費補助金
トシレベルの舞台芸術創造事業

出演／伊藤弘子
上田和弘
イワラ
谷宗和
里美和彦
富澤力
平野直美
木暮拓矢
坂井香奈美
山丸莉菜
本田実
流山児祥

音楽劇 はなふだでんき

花札伝綺

《流山児★事務所レパートリー》



●物語●
時は大正時代。
東京の下町にあった「死の家」と呼ばれる一軒の葬儀屋が舞台。「死の家」の家族は皆、死んでいるにもかかわらず、一人娘・歌留多が「生きている人間」墓場の鬼太郎に恋してしまったから、さあ大変。父親の団十郎が策した計画が、既に「死んでいる」美少年に娘を誘惑させ、娘も「死の世界」へ取り込んでしまおうというもの。こうして三つ巴、四つ巴の「死の世界」から「死の世界」にまたがっての鬼ごっこが始まる。
団十郎が勝つか、鬼太郎が勝つか？
娘の歌留多の運命やいかに？！

募集!

流山児★事務所では新人劇団員・地方公演プロデューサーを募集しています。詳しくは劇団までお問合せをお願いします。
あなたの町にお芝居を！！

流山児★事務所...りゅうざんじ じむしょ

日本の現代演劇・革命を担った60年代後半のアングラ＝小劇場運動の雄、劇団状況劇場(唐十郎:代表)、劇団早稲田小劇場(鈴木忠志:代表)の2つの劇団を経て、1970年より「演劇団」を率いていた流山児祥が1984年に世界演劇の地平を目指し設立したシアターカンパニーが「流山児★事務所」です。

寺山修司・唐十郎・佐藤信などのアングラ演劇の名作から、歌舞伎作品、海外の名作や現代人気劇作家の新作、新鋭演劇人たちとの競演、さらにはブロードウェイ・ミュージカル上演と「40年間で300本以上の上演活動」を行い、常に日本演劇界の最前線を疾走中です。